

はじめに…………… 3

序 章 現代文明の基礎、唯物科学に問題がある…………… 5

靈を認めない現代文明の行き詰まり…………… 6

靈魂説が文明轉換のキーポイント…………… 8

第一章 近代心靈研究 「靈」というタブーをこえて…………… 21

フォックス家事件 神人協同の大事業の始まり…………… 22

唯物思想というとらわれ——物神支配…………… 22

神とサタンの熾烈な闘いと三つの時代…………… 24

真正な心霊現象の条件……………27

霊媒と心霊研究を縛る宗教の弊害……………27

ミイラとりがミイラになる学者たち……………29

心霊実験の条件……………31

第二章 スピリチュアリズム

—— 霊交があきらかにした死後の世界……………37

死後の世界がなければ正義なし……………38

玉石混交の霊界通信……………42

西欧的自我の問題 なぜ日本へ渡ったのか……………44

第三章 浅野和二郎「日本神靈主義」

日本に渡りスピリチュアリズムは進化した	51
偉業を成した日本の心霊研究の父	52
浅野和二郎がスピリチュアリズムを前進させた点	54
浅野和二郎批判の意味するところ	59
「人は何処より来りて何処に去るのか	
——人類永遠の謎を科学的に解明しようとした」	61
「彼の知性は、思いがけない罫にはまった」	62
「明治の知的エリート浅野和二郎（……）の思考の悲しき痕跡」	64
守護霊研究の大きな意義	67
ネオ・スピリチュアリズム「人は神」の根拠	67

第四章

「日本神霊主義」の進展

脇長生

77

脇長生「波長の法」の功績

78

霊の働きを詳細に解明した意義

82

霊の働きの実例『スピリチュアルな生き方原典』

82

波長の法は人生指導原理の基本

86

幽体浄化

89

日本神霊主義の病気観

91

脇独特の血液と霊の感応

91

招霊実験（鎮魂帰神）による守護霊研究は世界的業績

67

浅野の「創造的再生説」

68

守護霊研究と自然霊研究が「人は神」の土台となる

69

脇の病氣観は「人は神」に半歩近づいた	93
「人は神」(桑原のネオ・スピリチュアリズム)の病氣観	95
ネオ・スピリチュアリズムへの飛躍	97
第五章 ネオ・スピリチュアリズムの成立 桑原啓善	103
シルバー・バーチの会設立までの軌跡	105
一九七三年(昭和四八年) 戦死者の声『同年の兵士達へ』	105
一九八一年霊示 不戦非武装の平和運動を決断	107
一九八二〜八四年 決死の平和運動	108
一九八四年 革命家宮沢賢治の発見	110

一九八五年	ネオ・スピリチュアリズムの誕生	112
	ネオ・スピリチュアリズムとは何か	113
	ネオ・スピリチュアリズム六か条	113
	ネオ・スピリチュアリズムが西欧のスピリチュアリズムから進化した点	115
	媒体論の意義	120
	因果律で「人は神」を知る	126
	決死の愛の実践がネオ・スピリチュアリズムを生み出した	128
第六章 「決死の愛」は日本の精神		
	武士道の本質との一致	145
	「日本の靈性」の妙好人とテクノボー（決死の愛の人）の一致	147
	道宗——決死の愛に生きる	147

才市——「あなたはわたし」（人は神）に生きる……………	149
日本の心（生命一元）の再生……………	156
童話「鳥の北斗七星」（宮沢賢治）と決死の愛……………	156
国家神道（天皇だけが神）の誤り……………	160
日本の生命一元論が世界平和の原理……………	162
終わりに——ネオ・スピリチュアリズムは神界計画……………	164
あとがき……………	169
初出一覧……………	172

